

## 8. 糖尿病内分泌内科 ジュニア・レジデントプログラム

1. 指導責任者：土居健太郎（糖尿病・内分泌・生活習慣病センター センター長）

2. 期間：4週間ないしは8週間、（内科系必修の一部）（2年目選択）

3. 目標

### 【一般目標 GIO】

臨床医としての素養を身につけるとともに、全人的な医療が実践できるようになる。糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や甲状腺疾患、副腎疾患などの内分泌疾患について症例を経験することで、基本的概念を理解すると共に、適切に専門医にコンサルトできる能力を習得する。

### 【個別目標 SBO's】

- 1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、患者の解釈モデル、受療行動を把握できる。
- 2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴）の聴取と記録ができる。
- 3) 基本的な身体診察を行える。
- 4) 入院中の患者の問題点を把握し、それらに対して適切に計画できる。
- 5) 医療面接において、患者のみならず患者の家族とも信頼関係が築ける。
- 6) 糖尿病の食事・運動療法などの指導の指示ができる。
- 7) 糖尿病合併症の評価のための検査を計画し、結果を理解できる。
- 8) エビデンスに基づいた糖尿病などの治療を考えられる。
- 9) 内分泌疾患の診断において、負荷検査を含めた諸検査を計画し、結果を解釈できる。
- 10) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。
- 11) 能力に応じて学会・研究会に参加する。
- 12) 内科医を志望する者は、総合内科専門医取得の準備を進める。糖尿病専門医・内分泌専門医を志望する者は、日本糖尿病学会、日本内分泌学会の専門医取得の準備を進める。

### 経験可能な症例

糖尿病、内分泌代謝疾患、周術期の糖尿病管理

4. 方略 LS

LS 1 (OJT)

- 1) 病棟においては、入院患者7, 8人を担当医として治療にあたり、医療面接・診察・検査計画・診断・治療過程を指導医のバックアップのもと経験する。
- 2) 外来を見学する場合は、能力に応じて、週1日ないし2日、診察を見学する。
- 3) 能力に応じて、病棟で他科からのコンサルテーションを指導医とともに担当する。
- 4) 診療を通して、診療ガイドラインを自習し、また、入院患者において、クリティカルパスを利用して、診療する。

#### L S 2 (勉強会・カンファレンス)

カンファレンスに参加して、EBMや、最新の診断、治療方法を学ぶと共に、病態や治療の基礎的メカニズムなどにも理解する。

週1回の糖尿病教室の一部を担当する。

週1回のカンファレンスに参加する。

月1回：コメディカルを含めたカンファレンスに参加する。

月1回の症例検討会や、ジャーナルクラブ、CPCに参加する。

#### L S 3 (その他)

- 1) 希望によって、日本内科学会や日本糖尿病学会、日本内分泌学会などに参加し、最新の知見も習得する。能力に応じて、日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、種々の研究会などで学会発表を経験するとともに、成果を論文として発表する。
- 2) 日本総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・日本内分泌学会専門医を志望する者は、経験した症例をリストアップし、詳細なサマリーを作成し、指導医からのチェックを受ける。

#### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30~9:30	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
15:00~17:15	病棟	カンファレンス 回診	病棟	病棟	病棟	病棟

## 5. 評価 EV

- 1) 指導医が、入院患者診療において、個別に形成的評価をおこなう。
- 2) カンファレンスで部長以下スタッフがチェックする。
- 3) 糖尿病教室の講義を担当し、評価の参考にする。
- 4) 学会発表の予演会にて知識をチェックする。
- 6) ローテーションの終了時には、EPOCに総括的評価を記録する。

この際、退院時サマリーの内容は、評価に加味される。

## 6. その他

当科は、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設であり、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医のもと、糖尿病、脂質異常症、高血圧症、肥満症、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や内分泌代謝疾患の臨床を幅広く研修できます。